

短 報

学修支援サービスおよび空間整備における現状と課題 —聖路加看護大学における学修支援サービス調査—

佐藤 晋巨¹⁾ 河合富士美²⁾ 松本 直子³⁾ 及川はるみ³⁾
金澤 淳子³⁾ 新沼 久美³⁾ 廣瀬 清人⁴⁾

Current Condition and Issues of Study Support Services and Space Development: Based on a Needs Survey Conducted at St. Luke's College of Nursing Library

Kuniko, SATO, MLS¹⁾ Fujimi, KAWAI²⁾ Naoko, MATSUMOTO, MA³⁾ Harumi, OIKAWA³⁾
Junko, KANASAWA³⁾ Kumi, NIINUMA³⁾ Kiyoto, HIROSE, Ph.D⁴⁾

[Abstract]

Background Libraries often have learning commons spaces to support active learning, but it is difficult to provide tailored study support services for individual libraries due to the many issues involved.

Purpose To determine requirements for the provision of suitable study support services at St. Luke's College of Nursing, its library staff conducted a related needs survey in fiscal year 2013.

Method To clarify study support service requirements among students, focus group interviews were held and a needs survey was conducted from January to March 2013.

Result A total of 148 out of 568 students responded (29%). Among these, 114 (77%) self-studied at the college between midday and 8 p.m. The top three locations for such study were the library (77; 53%), the graduate students' lounge (28; 19%) and the cafeteria (14; 10%). The top four reasons for choosing these places were because they were quiet (106), PCs were available (105), the Internet could be used (86) and study books were present (84). There was a strong need for information on how to use the library, support for national exams, and guidance on how to use PC software.

Discussion There is a need to review how existing study support services are provided and to conduct a more detailed needs survey in collaboration with other units in order to improve such services for students. Space suitable for active learning is required in addition to space for quiet study. To contribute to the promotion of active learning environments at St. Luke's College of Nursing, an appropriate method of evaluating study support services needs to be established.

[Key words] active learning, study support service, self learning, students, nursing, libraries, nursing

[要 旨]

背景 アクティブ・ラーニングをする学生を支援するためにラーニング commons が図書館に作られることは多いが、学修支援サービスについては課題が多い。

-
- 1) 聖路加国際大学学術情報センター図書館 リエゾン・ライブラリアン St. Luke's International University Library/Liaison Librarian
 - 2) 聖路加国際大学学術情報センター図書館 主任司書 St. Luke's International University Library/Chief Librarian
 - 3) 聖路加国際大学学術情報センター図書館 司書 St. Luke's International University Library/Librarian
 - 4) 聖路加国際大学学術情報センター図書館 図書館長・心理学教授 St. Luke's International University Library/Library Director, Psychology

目的 本学の学修支援サービスおよび空間整備における図書館の課題を明らかにするために本学学生を対象とした「学習支援サービス調査」を2013年度に実施した。

方法 フォーカスグループインタビュー実施後に質問紙調査を実施した。

結果 回答者数は148人(29.0%)であった。学生が学内で自己学修する時間帯は平日の12時から20時が多く、本館2階の図書館とラウンジの利用が61.5%であった。学修場所には静けさ、PC・ネット接続・資料が求められている。ニーズの高い学修支援サービスは図書館の使い方、国試の相談・対策、パソコンソフトの使い方であった。

考察 既存の学修支援サービスを学生のニーズと一致させ、他部署と連携してサービスを実施すること。学修方法に合った多様な空間を整備すること、サービスを評価し、サービス改善のサイクルを生み出すことが課題である。

[キーワード] アクティブ・ラーニング、学修支援サービス、自己学修、看護学生、看護図書館

I. はじめに

聖路加看護大学（現在、聖路加国際大学、以下本学とする）の図書館が実施した看護学生の学修支援サービスニーズ調査について報告する。本調査は2013年度図書館重点事業の1つである「情報技術を用いたアクティブ・ラーニングを支援する人材育成の仕組みづくり」に関わる調査である。日本の大学において、学生の受動的な学修から能動的な学修（以下、アクティブ・ラーニング）へと教育の質的転換が求められている¹⁾。そのような中で、大学図書館にはラーニング・コモンズと名付けられたアクティブ・ラーニングを行いやすい空間が作られており、2011年の時点でラーニング・コモンズを設置した大学図書館数は210となっている²⁾。空間としての図書館が変わる一方で、そこで行われる学生のアクティブ・ラーニングおよび学修コミュニティへの支援については、日本の大学に適したサービス内容の明確化、学修支援組織の設置、学内他部署・教員との連携等の課題がある^{3,4)}。

II. 目的

本学のアクティブ・ラーニング推進に図書館が寄与するための学修支援サービスおよび空間整備における課題を明らかにするために、学生を対象として学修支援サービスと、授業時間以外に学生が予習・復習・レポート作成などの個人学修及びグループ学修（以下、自己学修）を行う空間に関するニーズ調査を実施した。

III. 調査方法

最初にフォーカスグループインタビュー（以下、FGI）を実施し、その結果と図書館業務で得た情報を元に設問と回答選択肢を設定し質問紙調査を実施した。

FGIに参加する学生は学生図書委員を通じて募集し、応募した各学生に調査の趣旨を文書と口頭で説明した上で、FGIに参加する同意を文書で得た。参加者は学部生8人、大学院生2人の計10人であった。FGIの結果と、図書館業務で得た情報を基に質問紙を作成した。質問紙調査の対象者は学生及び研修生568人、回答期間は2014年1月21日～3月17日であった。質問内容は、本学で提供している学修支援サービス、学生が必要と考える学修支援サービス、大学内での自己学修場所と時間帯、自己学修場所を選択した理由とした。

IV. 分析方法

FGIは、録音を逐語で書き起こした後、発言内容でカテゴリとサブカテゴリに分類した（表1）。質問紙調査は集計後に図書館職員で結果の検討を行った。

V. 質問紙調査の結果

1. 本学図書館・教務課で提供している学修支援サービスについて

148人（対象者568人の29.0% 学部生91人、大学院生48人、研修生6人、N/A3人）から回答を得た。図書館及び教務課でそれぞれ提供している既存の学修支援サービス（図書館ツアー・文献検索ガイダンス・文献検索相談、教務課のパソコンソフト相談）について、これらのサービスを知っているか、利用したか、利用しない理由について次のような回答を得た。既存の学修支援サービスを「知らない」あるいは「知っているが利用したことがない」と回答した学生はパソコンソフト相談100人(67.6%)、文献検索相談95人(64.2%)、図書館ツアー90人(60.8%)、文献検索ガイダンス85人(57.4%)といずれのサービスでも半数を上回っていた（図1）。既存の学修支援サービスを「知っているが利用したこと

表1 フォーカスグループインタビューのカテゴリー

カテゴリー	サブカテゴリー	発言例
自己学修場所	図書館とラウンジの使い分け	グループワークとかもしあったりすればラウンジや空き教室を使いますが、個人の勉強とか、レポートやらなきゃというときは10時まで図書館に残っていることが多いです。 すごい本当に集中したいときは、図書館を使って、またちょっと暗記とかゆったりやっても大丈夫なときは、お菓子を食べながらラウンジでやったりとか。食べたいなというときはラウンジでやるっていう感じで使い分けていました。
	図書館とコンピュータールームの使い分け	本や資料が手元にあるときは図書館に行ったりしますが、レポートをそのまま入力して打つときは4階のコンピュータールーム、あそこだと両面印刷もできますし、そこを使っていました。
	静かで集中できない図書館	静かなところで自分の一挙一動の音がするのが嫌であり使わない。図書館の中だと逆に静かすぎて集中できない。
	グループワークに適した場所の不足	ただ6階のラウンジは5、6人でやるには広いんでこれくらいの部屋(303)が2個ぐらいあればいいと思うんですね。広い部屋1つより。
図書館開館時間	大学一斉休暇期間の利用	ゴールデンウィーク閉まると聞いて、ゴールデンウィーク授業がないからいろいろできるのに、それができないっていうのは研究を促進する大学なのにどうかなって思いました。
	授業前(早朝)の利用	家でレポートを作っても家のプリンターはすぐ壊れちゃうので大学で印刷をしたい。早めに図書館があいてくれればちょっと余裕ができる。ほんとに印刷するだけならいいですが、ちょっと手直ししたいときとかそういうときは。
	夜間の貸出し	貸し出しが終わる時間までに借りたいものは全部探し出しておこうと準備していますが、でもやっぱり勉強していくうちに、また借りたい本が出てきて、でもそれがわかった時間には、貸し出しが終わっていたりすることもあって、そういうときはもう少し貸し出しの時間が長かったらよいと思います。
	実習期間における夜間の利用	実習中、着替えとかがあって図書館に行けるのが5時過ぎになるんですけど、そうすると10時までしか時間がない中で、わからないところ調べたりとか、記録もやったりとか、私、自分でパソコンを持っていないので、記録とかやるのは図書館じゃないとできなくてもう1時間くらい図書館が長くあいてると、手書きで時間かけることなくできたのに、っていうことがけっこう実習中にある。
自己学修時に相談する人	友人	いつもやりかたわからなくてそのまま提出していたら、いつも形式が違うってかえってきたが、やっと友達に教えてもらって大丈夫になりました。
	職員(相談しにくい)	体こっち向いて仕事してもらっていたら、話しかけやすいなって思うんですが、どこかにしてほしいということじゃなくて、学生の視線に気づきやすい位置のとり方をしていればよいのかなって。横向いていらっしやると、ちょっと忙しそうだなって思ったりする。
学修支援サービス	学生によるサービス提供	学生アルバイトというかたちで操作の、相談を受ける学生とか、図書館の本の探し方とかの相談にのる学生がいると、気楽に相談とかしやすくなるのかな。
	職員によるサービス提供	具体的なパソコンの操作法とか、そういうのは、私自身まあそんなに詳しくないし、たぶん学生が返すとそこからまた専門家にと二度手間になる気がして、だから、そういう具体的なパソコンの操作とか、そういう、プロの技術とかが必要な項目はSEさんとかのほうがいいのかと思います。
	レポートの書き方	1年生で入ってきたときに、結構レポートを書くことが多いんですけど、レポートの書き方を教えてもらっていない。紙で、こういうふうに書いてくださいって、説明が書いた紙はもらったんですが、言葉でちゃんと説明してもらっていないので、周りを見てもすごく困っているなど印象なので、もしそういう講座があったらすごく役に立つなって。

がない」と回答した166人の利用しない理由(複数選択回答可)は多い順に「サービスが必要ない」76、「その他」41、「サービス時間帯が不適當」34、「サービス内容が不適當」3、「サービス場所が不適當」2、「N/A」10であった(図2)。「その他」と回答した人は「困った時に聞こうと思った」「気軽に利用しにくい」等の記載が複数あった。

2. 学生が必要と考える学修支援サービス

他大学で提供している学修支援サービスも含め、学生のニーズを尋ねた(図3)(複数選択回答可)。選択した学生が多かった学修支援サービスの上位4項目は「図書

館の使い方」103、「国試の相談・対策」94、「パソコンソフトの使い方」89、「プレゼンテーションの方法」86であった。学部生91人の回答に限定すると、最も多かったのは「国試の相談・対策」の68であり、次いで「図書館の使い方」60、「パソコンソフトの使い方」53であった(図4)。「その他」を選択した中で「国試の相談・対策」を選択したうえで「国試の対策は、本当に必要だと思います! 4年生の中でも、他大学を羨む声ばかりでした。どうか後輩のためにもお願いします!」と記載した学生もおり、学生に切実な要望があることが見受けられた。

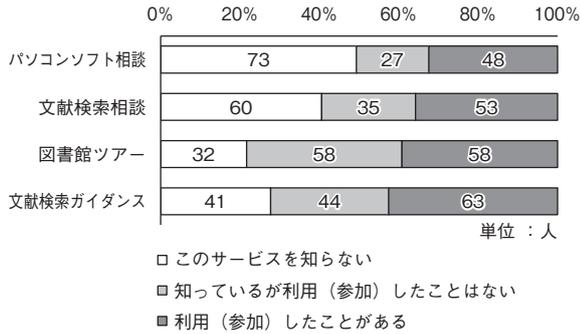


図1 既存の学修支援サービスの利用(参加)状況(N=148)

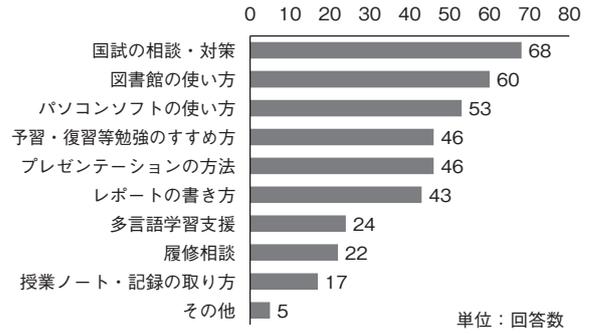


図4 学部生が必要と考える学修支援サービス(複数選択回答可)

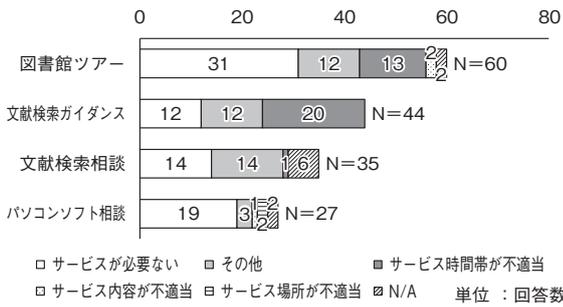


図2 既存の学修支援サービスを利用(参加)しない理由(複数選択可)

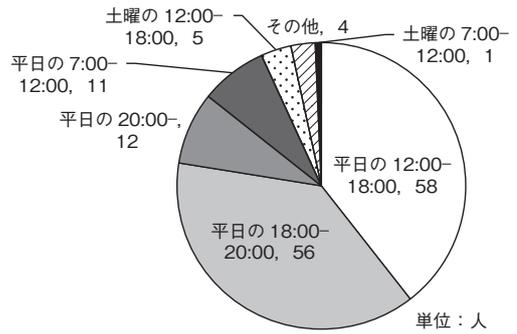


図5 大学で最も多く自己学修する時間帯(N=148)

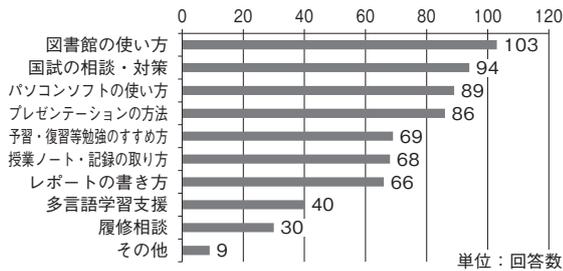


図3 学生が必要と考える学修支援サービス(複数選択回答可)

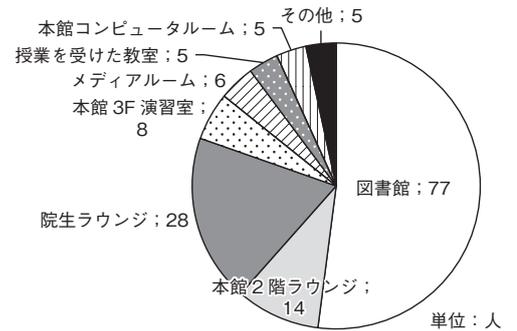


図6 大学で最も多く利用する自己学修の場所(N=148)

3. 大学内での学修時間帯, 場所, その場所を利用する理由

学生がいつ, どこで自己学修をしているのか, 自己学修した場所を選んだ理由を質問した(順に図5~7に対応している)。自己学修を行う時間帯は平日の12時~18時と18時~20時が多く, 合わせると114人(77.0%)であり, 平日の午後から深夜に及ばない時間帯に学内で自己学修する学生の多いことがわかった。自己学修する場所は図書館が77人(52.0%)と最も多い。本館2階ラウンジ14人(9.5%)と合わせると91人(61.5%)が本館の2階で自己学修を行っている。自己学修した場所を選んだ理由(複数選択回答可)は, 「静かだから」106, 「パソコンがあるから」105, 「インターネットが使えるから」86, 「資料があるから」84であった。「その他」の中には飲食ができることを理由とした記述, 「机が広く使える」「一人で学習できる」「自分の個人用ロッカーの近く」と一人で学修しやすい環境を理由にあげた記述が複数あった(図5~7)。

VI. 考察

1. 本学における学修支援サービスの課題

今回の調査から, (1) 学生のニーズに対する既存の学修支援サービスの不一致, (2) アクティブ・ラーニングに適した空間整備, (3) 図書館サービスを改善するサイクルの確立, (4) 学修支援組織の設置の4つの課題が明らかになった。

2. 学生のニーズに対する既存の学修支援サービスの不一致

例えば, 図書館ツアーは4月に新入生を10人程度のグループに分けて図書館の基本的な使い方(蔵書の探し方, 資料の置き場所, 本の借り方返し方等)を紹介している。本調査では図書館ツアーに「知っているが参加したことはない」理由として最も多い回答は「サービスが

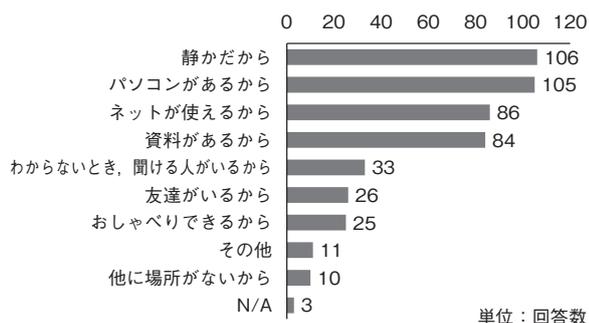


図7 その場所で自己学修した理由（複数選択回答可）

必要ない」31（51.7%）であった。図書館ツアーは学生の任意参加で2013年4月は新入生の約3割にあたる33人が参加するに留まっている。一方で図書館の基本的な使い方に関する学生の問い合わせを個別に受ける件数は多い。本調査で既存の学修支援サービスを「知っているが利用（参加）しない」理由を「困ったときに聞けばいい」という内容の記述が複数見られた。また、FGIで自己学修時に困ったことがあっても学生から見ると職員は忙しそうなので聞きにくいという趣旨の発言があった。以上のことから、図書館ツアーのように時期を決め、まとまったグループを対象に学修支援サービスを行うよりも、個別に尋ねやすい支援者を置いてサービスを提供することに要望があると考えられる。

3. アクティブ・ラーニングに適した空間整備

学修空間には、学生が一人で学修する静寂な空間に加えて、ある程度賑やかに飲食しながら学修できる空間、そしてグループワークで話し合いながら学修できる空間等、多様な空間が求められている。このことは他大学の調査においても明らかになっている⁵⁾。今後、図書館を改修するとすれば、一人で学修する静寂な空間として運用している現在の空間に加えて、活発なアクティブ・ラーニングに適した場、緩衝地帯としてある程度賑やかな空間を作る必要があると考えられる。

4. サービスを改善するサイクルの確立

今回は独自の調査項目で調査を行ったが、本学の図書館サービスの水準が他の学術機関の図書館と比べてどの程度の位置づけであるかを測ることはできない。図書館のサービスを評価するための標準ツールとして北米を中心に世界20カ国、1,000以上の学術図書館で実施されているLibQual+®がある⁶⁾。日本国内においてもこの評価ツールを使いサービス改善につなげている大学図書館の事例がある^{7) 8)}。このようなサービス評価方法を活用して継続的にサービスを評価し改善するサイクルを生み出すことで、図書館は本学におけるアクティブ・ラーニング推進に寄与できると考えるがそこまで至っていない。

5. 学修支援組織の設置

今回は学修支援サービスについて他大学での実践例を示しながら学生のニーズを探った。今後、新たに学修支援サービスを担当する部署を設置するとすれば、これらのニーズを更に探りながら、継続的な学修コミュニティへの支援、学内他部署・教員との連携等の課題を解決できると考えられる。また、学修支援の視点から図書館を評価し、サービス改善につなげることが期待できる。

謝辞

紙面の都合でご芳名をあげられませんが、本調査を実施するにあたりご協力いただきました2013年度と2014年度図書委員会の皆様に感謝申し上げます。

引用文献

- 1) 文部科学省中央教育審議会大学分科会. 予測困難な時代において生涯学び続け、主体的に考える力を育成する大学へ（審議まとめ）. 文部科学省中央教育審議会大学分科会. http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo4/houkoku/1319183.htm. [2014-10-29].
- 2) 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. 学修環境充実のための学術情報基盤の整備について：審議まとめ. 文部科学省科学技術・学術審議会学術分科会学術情報委員会. http://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/25/08/1338778.htm. [2014-10-29].
- 3) 山内祐平. (2011). ラーニングコモンズと学習支援（特集：ラーニングコモンズと利用者サポート）. 情報の科学と技術. 61, 478-482.
- 4) 永田治樹. (2009). 大学図書館における新しい「場」インフォメーション・コモンズとラーニング・コモンズ（特集 ラーニング・コモンズ）. 名古屋大学附属図書館研究年報 7, 3-14.
- 5) 園原麻里, 西條智架, 三谷三恵子. (2013). 慶應義塾大学信濃町メディアセンターにおけるスタディライフ調査報告：学生の学習実態に基づいたサービス改善の試み. 医学図書館 60, 445-458.
- 6) Association of Research Libraries. General Information about LibQual+®. https://www.libqual.org/about/about_lq/general_info. [2014-10-29].
- 7) 上岡真紀子. (2009). 利用者調査の結果を活かす：マーケティングの視点から（インフォプロのための企画・立案）. 情報の科学と技術 59, 492-497.
- 8) 永井伸. (2012). 図書館サービス評価アンケート（LibQUAL+）の実施速報. 東北大学附属図書館調査研究室年報 1, 63-67.